

## 発達障害・精神障害を有する不登校児に対する作業療法支援 —地域の支援機関との連携プロジェクト—

林部 美紀<sup>1</sup>, 真下 いずみ<sup>1</sup>, 高畑 脩平<sup>1</sup>, 長尾 将利<sup>1</sup>, 尾藤 祥子<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 藍野大学 作業療法学科

**報告概要** 昨年に引き続いて引きこもり・不登校のイベントを実施した。講演は3回実施し、19-33名の参加があった。ピアカウンセリングは7名の参加があった。昨年との違いは講演者を変更し、各回の講演でディスカッションを設けた。また、ピアカウンセリングを2部に分け、当事者や保護者が話しやすい雰囲気を作った。アンケート内容も一部変更した。結果、昨年度に比べてリピーターが定着し、関連機関との連携も広がってきた。今後も地域からみた藍野大学での不登校支援の定着を狙いたい。

### 1. はじめに

文部科学省の令和6年度調査結果によると<sup>[1]</sup>、小・中学校の不登校児童は353,970人と過去最多となっており、行政・民間・地域等、多角的な関わりが必要となっている。藍野大学の作業療法学科は発達障害分野、精神障害分野を専門とする教員が在籍しており、その中で茨木市の行政と連絡が密にできる教員、不登校支援を専門とした教員もいる。そこで、作業療法学科で不登校問題について支援できるのではないかと考え、昨年度より、社会貢献委員会の支援を受け、年に数回の不登校支援の講演会とピアカウンセリングを実施している。昨年度は2回の講演「不登校支援の実際」「児童の発達支援・方法」では、約30名の参加があり、不登校・引きこもり当事者やその家族、教育・医療系・地域問わず、多数の支援者の参加となった。1回の「保護者カフェ」ではピアカウンセリングの手法で参加者が1人ずつゆったりとした時間で過ごすことができた。

この結果より、3回のイベントは盛況に終わり、不登校児における作業療法士の支援については事者や家族、多職種にある程度認知されたが、藍野大学が地域貢献として引きこもり・不登校支援の拠点として関連機関と連携することや、当事者や家族間、当事者や家族と支援者など人と人をつなぐということは不十分であった。そこで、2025年度は、関連機関と連携した講演やディスカッションする場を提供し、より一層の地域貢献をしていきたいと考えた。

### 2. 目的

今回のプロジェクトの目的は、今後、藍野大学が地域貢献として引きこもり・不登校支援の拠点として役割を担うために藍野大学作業療法学科の発達障害と精神障害の教員が中心となって、作業療法士が実施する引きこもり・不登校支援についての啓発活動をする事、また、関連機関と連携すること、

人と人をつなぐこと、および不登校児や保護者に対して、作業療法士が実施するピアカウンセリングを実践することである。

### 3. 実施内容

2025年度は合計4回のイベントを実施した。イベントの内容を考案し、毎回A4のチラシを作成した。それを発表者らが茨木市の行政機関、支援機関、支援者、当事者、保護者に説明・配布を行った。また、地域の親の会へのアナウンスも行った。

①1回目「地域の取り組みと支援者からのメッセージ」の講演

日時：2025年8月23日9:30-12:10

場所：藍野大学MLC棟2階アクティブコモンズ

内容：2名の講師による講演を実施した。1人目は茨木市教育センター、センター長代理の福山有子氏に不登校に対する教育センターの取り組みについて登壇してもらった。2人目はユースプラザEASTちょいの相談支援コーディネーター貞岡実氏に不登校。親の気持ち。子の気持ち。という題材で登壇してもらった。また、講演後に藍野大学作業療法学科科長で学校作業療法を実践している尾藤祥子教授のコーディネートの下、参加希望者全員でフリートークをしてもらった。

②2回目「不登校からはじまる未来づくり講演会」

日時：2025年11月30日13:30-16:00

場所：藍野大学MLC棟2階アクティブコモンズ

内容：2名の講師による講演を実施した。1人目は藍野大学教員で不登校支援の研究や支援をしている真下いずみ講師が不登校の現状と関わりかたを講演した。2人目は三幸会うずまさクリニック作業療法士の葛目順一氏に親子3人4脚不登校から始まる未来づくりの題材で登壇してもらった。また、講演後に真下いずみ講師のコーディネートの下、参加希望者全員がグループになり、フリートークをしてもらった。講演にあたり、茨木市の後援も授かり、

運営した。

### ③ 3回目「不登校カフェ」

日時：2026年1月10日 10:00-12:00、13:00-15:00

場所：藍野大学 MLC 棟 2階アクティブコモンズ

内容：午前中は保護者だけで語ってもらうカフェ、午後からは不登校中またはそれが起こりうる小中学生対象で長尾将利助手が遊びを中心とした会を実施した。

### ④ 4回目「子どもの支援」

日時：2026年2月3日 12:40-16:00

場所：藍野大学 MLC 棟 2階アクティブコモンズ

内容：2名の講師による講演を実施した。1人目は藍野大学で発達支援を専門にしている高畑侑平講師による当事者研究と客観科学の両方の観点から発達特性について講演した。2人目はフリースクールここの馬場しずか副代表にフリースクールの事例紹介について登壇してもらった。また、講演後に林部美紀准教授のコーディネートの下、参加希望者全員がグループになり、フリートークをしてもらった。

## 4. 分析

アンケートは独自でアンケート用紙を作成し使用した。項目は①年代②所属③知った方法④参加目的⑤満足度⑥感想とした。その後、①-⑤はグラフ化した。

## 5. 結果・今後の展望

① 1回目 参加人数は19名で、アンケート総数は17であった。40代50代が多く、保護者の参加が多かった（図1）。講演を知った方法はリピーターに送っている案内メールと知人の紹介が多かった。参加目的は不登校に対する知識を得たいからや教育センターの取り組みを知りたいからが多かった。満足度は17名中15名が非常に満足であった。

② 2回目 参加人数は31名で、アンケート総数は26であった。40代50代に加えて20代が多く、保護者に次いで医療職の参加が多かった（図2）。講演を知った方法はリピーターに送っている案内メールと知人の紹介が多かった。参加目的は不登校に対する知識を得たいや支援者の立場からお話を聞いてみたい、支援者として役立てたいが多かった。満足度は非常に満足、次いでやや満足であった。

③ 3回目の不登校カフェの参加者数は10名で、午前中は3名で午後は4名であった。午前中は不登校について、1人ずつ話をしてもらった。不登校の情報収集についての共有を多くした。午後からは子ども2名の参加があり、子どもを中心に遊びを取り入れた活動を行った。

④ 4回目 参加者数は33名で、アンケート総数は30であった。20代が多く、医療系学生の参加が多

かった（図3）。講演を知った方法はSNSが多かった。参加目的は不登校に対する知識を得たいや支援者として役立てたい、フリースクールの取り組みが知りたいが多かった。満足度は非常に満足、次いでやや満足であった。

全体を通して、リピーターや知人の紹介が多く、各回によって年代や属性に相違があること、参加目的は不登校に対する知識を得たい参加者が多いことが分かった。

### 今後の展望

この結果より、今回のプロジェクトの目的、①今後、藍野大学が地域貢献として引きこもり・不登校支援の拠点として役割を担うために藍野大学作業療学科の発達障害と精神障害の教員が中心となって、作業療法士が実施する引きこもり・不登校支援についての啓発活動をする、また、関連機関と連携すること、人と人をつなぐことに関しては、リピーターも増え、そのリピーターが知人を紹介してくださるなど、だんだんと啓発活動の輪が広がってきた。また、今年度は茨木市の後援を授かった回もあり、茨木市の教育センターやフリースクールへの講演依頼もすることができ、関連機関との連携も進んできた。また、大阪府内の親の会の役員の参加や問い合わせも増えてきた。

②不登校児や保護者に対して、作業療法士が実施するピアカウンセリングを実践することについては、「不登校カフェ」という機会を作り、保護者の情報収集の手段などについて知ることができた。また、子どもが参加する機会を得たことで、外に出る機会の提供になったといえる。

今後は、作業療法士の専門性を活かし、今後も参加者が求めている不登校の知識を提供し、地域の支援者と連携しながら、不登校支援という社会貢献をしていきたいと考える。

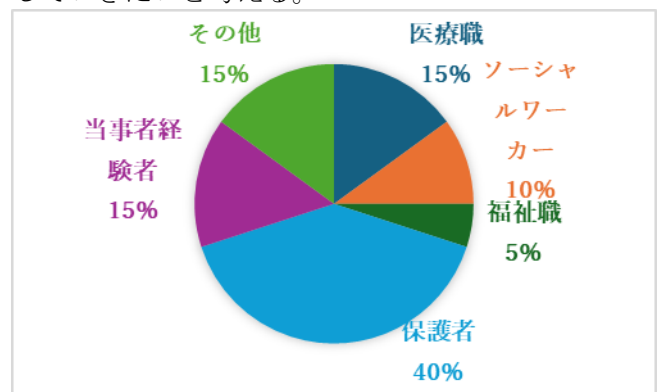


図1. 1回目講演 参加者の属性

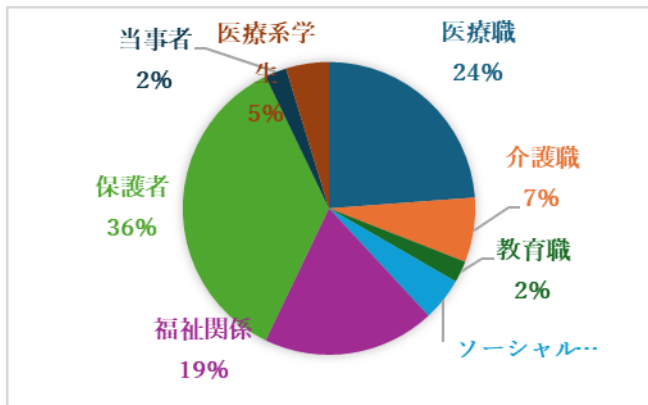


図2. 1回目講演 参加者の属性

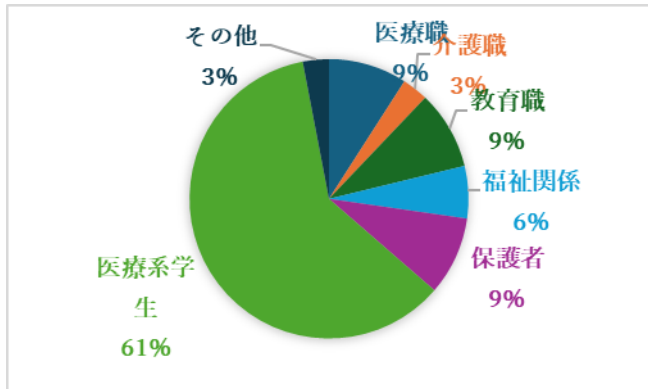


図3. 3回目講演 参加者の属性

引用文献

[1] 文部科学省 令和6年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要  
[https://www.mext.go.jp/content/20251106-mxt\\_jidou01-000045738\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20251106-mxt_jidou01-000045738_3.pdf)